

【事業報告】

「今、なぜ、私たちはラクロスをするのか。」— 2021年は、ラクロスコミュニティとJLAが今まで経験したことのない困難を乗り越えた1年になりました。国際的な大会が引き続き延期される中、Bravely Forward(大会運営コロナ対策PJ)を深化し続け、地区リーグ戦、全国大会、関東ジュニア大会を実施することができました。依然として、代表活動、地区主催行事、フレッシュマンズキャンプ(FC)等のグラウンドでの活動・交流の制約はありますが、一方で、オンライン会議、新コミュニケーションの浸透が運営の効率化に寄与し始めています。審判試験や指導者認定講習(JLAcadmy)のオンライン化は逆境下の強化活動に貢献しました。2020年に2000人まで半減した新人獲得は、SNS/WEB広告・オンライン新歓説明会を全国に戦略展開し、3000名まで回復しました。日本代表活動、地区国際交流事業、ジュニア普及が制約をうける中でも、専門的重点事業に注力しブランド力引上げを推進することができました。尚、7月に、WL(国際ラクロス連盟)の、IOC(国際オリンピック委員会)への正式加盟が承認されました。

- 大会運営 : Live配信文化の定着、オンラインチケット制度導入などを行うことで、安心・安全な環境を整備しながらも、各地区リーグ戦でも数々の工夫が生まれ、2年ぶりの全国大会を有観客で開催することができました。
- マーケティング : 本格的な競技活動ができない状況下、ラクロスの本源的価値を丁寧にブランディングし、マーケティング機能が立ちあがった年となりました。①ビジョンドリブンパートナーの「Simplex」、②ビジュアルエクスペリエンスパートナーの「アドビ」、③ブランドデザインパートナーの「VASALLO・LENACOS」、④Player! の「ookami」、⑤Mushaプログラム提供・協力の「リクルート・データスタジアム・アドビ」とパートナーシップを結びました。また、「Lacrosse as a Life.」を具現化するJapan Lacrosse Founders 制度を新設し、現会員の外側に向けたラクロスサポーター制度を立ち上げました。
- 広報 : 公式WEB・SNS情報発信の強化、リーグ戦・全国大会の YouTube/SNSオンラインライブ配信の定着、OTT動画配信サービス開設によりラクロスの認知度向上に貢献することができました。
- 安全対策 : 継続的な医科学セミナーを開催しコロナ下の活動についての啓蒙活動を実施、またアンチ・ドーピング委員会を新設、JADA加盟準備の体制を整備しました。
- ガバナンス : 公益法人化の総会決議を経て、内閣府への申請手続きを進めました。経理・総務基盤の高度化と、ゼロベースの経費コントロールを結果的に進めることになりました。

【決算概況】

日本代表、地区事業が引き続き中断されており、予算対比で収入・支出とも大幅に縮小し、最終損益は均衡予算対比プラスとなりました。収入は前年実績比+18%の276百万円(予算比▲19%)、内、会費収入は同+23%の174百万円(同+16%)、その他収入は同+11%の102百万円(同▲47%)と引き続き厳しい結果となりました。新人獲得数が想定を上回る一方で、FC事業がほぼ中止となったことが主因です。審判試験や指導者認定講習は収入に継続寄与しました。一方、経費は、前年実績比▲26%の200百万円(予算比▲41%)と大幅に減少しました。事務所退去による賃借料減が通年寄与したことや、施設利用料とオンライン化で旅費交通費が減少、FC中止で業務委託費がかからなかったことが主因です。ゼロベースの構造改革を進め、無駄を無くし効率化効果が出る一方で、地区・部門の活動が冷え込んでしまっていることも原因です。結果、最終損益は+76百万円(予算比+76百万円)となり、純資産は161百万円となりました。

ご参考

JLA 過去決算推移

2018年一般社団法人化後、コスト構造改革を進展させつつ、戦略的な人的・資源配分を行ってきました。2020年以降のコロナ危機を乗り越えつつあり、成長戦略を描くステージに入ってきました。経常損益は期またぎ、決算期変更等もあり単年度では大きく変動をしてきましたが、4期平均では収支均衡しております。

◆JLA決算推移

	2018/1-12	2019/1-12	2020/1-12	2021/1-12	2022/1-3(予算)	2022/4-2023/3(予算)
経常収益	446,715,740	497,007,434	239,986,741	276,376,085	25,900,000	417,500,000
(内：会費)	224,660,299	210,120,602	142,256,354	174,783,000	500,000	175,000,000
(内：その他)	222,055,441	286,886,832	97,730,387	101,593,085	25,400,000	242,500,000
経常費用	414,919,138	520,849,771	268,801,969	199,903,207	54,000,000	437,500,000
当期経常増減額	31,796,602	-23,842,337	-28,815,228	76,472,878	-28,100,000	-20,000,000

※6/1法人化のため

※新入生会費無償化

任意団体1-6月決算と合算

正味財産期末残高	137,819,846	113,696,509	84,935,581	161,038,459	132,938,459	112,938,459
----------	-------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------